



子育てカレッジ kiui. 講座 「第1回子育て講座」を開催

7月1日、本学の専門知識を生かして講習や相談を行う「吉備国際大学たかはし子育てカレッジ」を、高梁市・地域子育て支援関係者と協働で創設しました。子育てカレッジとは、地元自治体・子育て支援関係者と大学が協働で子育て支援活動を行う組織です。

その取り組みの一環として、第1回子育て講座が8月2日、吉備国際大学国際交流会館で開催されました。本学保健科学部・石田喬士教授（専門：小児科学、小児神経学、てんかん学）による「子どもの病気について～暑い時期に注意すること～」と題しての講演でしたが、夏の風邪3種類や発熱時の対処法、病院に連れて行く判断など、育児中の保護者が日ごろ知りたいと思っていることについての大変分かりやすい内容でした。また、参加者から事前に寄せられた質問をもとに、病気のほか「しつけ」「離乳食」など、小児科医の立場からだけでなく私的な意見も含め、総合的にアドバイスしていただきました。

参加された26人の母親と支援者の皆さんからは、「とても勉強になり良かった」「もっとお話を聞きたい」など大好評でした。講座の間、受講者のお子さんたちは「ゆう・ゆうひろば」で託児されており、お母さん方も安心して1時間半の講座をしっかりと受講されていました。

子育て講座は、今後、「子どもの成長と発達」「叱り方」（内容、日時は未定）などの子育て家庭を対象とした講演、「発達障害児支援の現状と課題」などの幼稚園教諭、保育士など子育て支援者を対象とした講演を予定しています。



■問い合わせ 順正学園入試広報室 (☎@7178)

地名と歩く

六十九 松原町
大津寄



地形図(2万5千分の1 図幅「高梁」より)



大津寄の谷と福地谷山方面を見る

「大津寄」は松原町の大字で、「大津寄」という地名には、古くから人々はその地域の地形を見事に表現したもので、地理学的にも興味関心のあがる地名と言えます。

大津寄付近を二万五千分の一の地形図(図幅「高梁」)で見ると、等高線の間隔も狭く、大津寄東から流れる谷筋と大津寄西から流れる谷筋(畑谷)があって、周辺は吉備高原の四〇〇mを越す山々が多く、急傾斜の山塊が深い谷底へと落ち込んでいて、「大津寄東」や「大津寄西」の集落が谷間の斜面に点在しているのが読み取れる地域です。

現在、大津寄地区の急斜面は、地滑り防止の箇所が多く、平地に乏しい険しい地形の場所なのです。

「大津寄」の北には、松原町春木、東には落合町原田の「川乱」地区(拙稿「地名さんぽ」三十八参照)が、西には松原町松岡地区が、いずれも波浪状になった吉備高原上の地域となっています。南には二つの谷が流れ出る底地の落合町福地があります。古くからこの地で生活した人々は、険しい地形の特徴をとらえてうまく表現していて、例えば川乱との境付近の峠を「大ふけ(深い場所)峠」「備中誌」とか、「どん

でん(どんでん返し)の地形)峠」などと呼ばれる場所に地名を付けていてそれぞれの場所には、伝説もあって面白いものです。

「大津寄」の古代・中世の歴史はよく分かっていますが、中世には下道郡成羽郷に属していたよう

で、戦国時代になって「川上郡大津寄村」という村名が見えています。その後、毛利の支配となり、慶長五年(一六〇〇)になると幕府領「寛永備中国絵図」(寛永一五年頃一六三八頃)には、「大津依村」と書かれ、元和三年(二六一七)から松山藩領となっています。正保二・三年頃(一六四四・四六)の「正保郷帳」には「大津依村」六五石余りと記され、寛永一十九年(一六四二)には再び幕府領となっています。その後、元和三年(一六八三)からは撫川領、旗本戸川主馬助(「川上郡誌」・「備中村鏡」では戸川方の助となっている)となって幕末を迎えています。このときの庄屋に平松市兵衛が記録されています。石高は、畑や水田の面積が増えたため江戸初期より増加していて、天保五年頃(一八三四年頃)の「天保郷帳」では「大津寄村」二〇九石余りと記録されています。明治になって倉敷県、深津

県、小田県と属して明治二二年(一八八九)まで「川上郡大津寄」でした。この村の産土神は宝暦九年(一七五九)創立と伝えられる、字妙見にある天津神社で境内には享保元年(二七一六)銘の石灯ろうが一対残

っていて本殿は一間社流れ造りで、祭神は天御中主神で仏教の妙見信仰と習合する神だといわれる神なのです。秋祭りに行われる渡り拍子は(市の無形文化財)古くから「大津寄」に伝えられ、地元では「京都洞仙流渡り拍子」だと伝わっていますが、落合町川上の深耕寺に花山院が滞在したときに随行者が深耕寺へ伺候したときの礼法を伝えたもの(増補版高梁市史)などといわれています。が起源についてはよく分かっていません。

「大津寄」という地名は、古代語の「潰」とか「崩」から発生した地名で、崩れた崖地とか、切り立った崖地を意味することが多く、山などの土の崩れた所や、崖崩れの所などの「崩壊地形」を表わし、杖・崩・潰などの文字がよく使われています。したがって「大津寄」も同じ「崩崖地形」を意味する地名で、代表的な自然地名なのです。(文・松前俊洋さん)

第22回 月見の宴



なりわ観光協会 副支部長 中久保 幸一さん(71)

成羽美術館で、今年も恒例の「月見の宴」が開催されます。

なりわ観光協会が成羽の秋を華やかに盛り上げようと始めたもので、今年で22回目。

美術館の池「流水の庭」にステージを設置し、かがり火を焚き、スキの穂などを飾り付け、幻想的な雰囲気演出。琴や尺八、狂

言、詩吟などが演じられます。客席の横にはお茶席が設けられ、一服することもできます。「皆さんに楽しんでいただく」という思いで、会員一同頑張っています。中秋の名月の夜を成羽で優雅に過ごしてみませんか」と中久保さん。

詳細は次のとおりです。

▽日時：9月18日(土) 午後6時～午後9時

▽会場：成羽美術館 流水の庭

▽入場料：1000円(前売800円・お茶とお団子付き)

■問い合わせ 成羽観光案内所 (☎@4325)

編集後記

「リーダーの魂」という演題で講演してくださいました市政アドバイザーの伊藤謙介さん。伊藤さんが発せられる言葉の節々に、今まで絶大な努力を重ねてこられた「重み」のようなものを感じ、夢中になって聴講しました。

リーダーといえは、「あなたの上司(リーダー)が誰であってほしいですか」という調査がよくありますが、「原辰徳」「星野仙一」など、必ずプロ野球の監督

経験者が上位に名を連ねます。メディアへの登場が多いということも理由の一つでしょうが、チームをまとめる統率力を認められていることだとも思います。今回紹介させていただいた高梁野球スポーツ少年団。優勝候補を次々と撃破する様子を拝見し、しかも、子どもたちの笑顔や気持ちのよいあいさつも目撃できにしました。すばらしい指導をされているなあと感じました。(T・M)